

機関番号：15401
 研究種目：基盤研究 (C)
 研究期間：2007 ~ 2010
 課題番号：19520305
 研究課題名 (和文) 中国古小説の話題事項集成

研究課題名 (英文) Collection of topic matter of Chinese old tails

研究代表者

富永 一登 (TOMINAGA KAZUTO)
 広島大学・大学院文学研究科・教授
 研究者番号：70132636

研究成果の概要 (和文)：

本研究では、『太平広記』『古小説鉤沈』の字句の校勘と厳密な読解を行いながら、約 7000 話の中国古小説の話題事項を抽出し、それを分類整理した。これによって、中国古小説の類話を検索するための利便性が高まり、中国古小説研究のみならず、日本あるいはアジアの諸地域、広くは世界の説話との比較研究を行う上で、関連ある話題事項を提供することが可能になった。また、古小説の訳注作業を着実に進展させるという成果も得られた。

研究成果の概要 (英文)：

In the present study, while doing text critic of words and phrases of *Taipingguangji* and *Guxiaoshuogouchen*, and a strict translation, classifying the topic matter of Chinese old tails of about 7000 stories was extracted. As a result, the convenience to retrieve tails that similar story of Chinese old tails rose, and it became possible to offer the relating topic matter in not only the study of Chinese old tails but also in doing the comparison research with the legend of Japan or various regions in Asia and all over the world. Moreover, the result of steadily advancing work of translation and annotation in the old tails was achieved.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2008年度	600,000	180,000	780,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：中国古典文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：中国文学・漢文学・中国古小説・太平広記・唐代伝奇・六朝志怪・古小説鉤沈

1. 研究開始当初の背景

六朝・唐の古小説は、中国の様々な文化を背景に記され、物語られたものであり、そこには中国文化をひもとく重要な鍵が隠されていると考えられる。ただ、個々の話を単独で考察していたのでは、その全体像はなかなか見えてこない。そこで、かねてから古小説の研究に際しては、各種の類書・辞書・索引類を活用して関連する事柄を如何にして集

めるかが大きな課題となっていた。

2. 研究の目的

本研究では、中国古小説の類話検索のための利便性を高め、その利用価値をより広範なものにするために、原文の詳細な読解を通して、古小説の内容をできるだけ細かく日本語の項目に分類し、話を構成する事項（話題事項）の集成を行うことを目的とした。

3. 研究の方法

以下の手順によって実施した。

- (1) 『太平広記』許自昌本との字句の異同を検討した。
- (2) 『太平広記』の訳注作業を進めた。
- (3) 魯迅輯『古小説鈎沈』についても、原典との交換作業を行いつつ訳注を進めた。
- (4) 研究会メンバーである留学生の研究補助者の協力のもとに南開大学の寧稼雨教授から受けとった六朝小説に関するデータをもとに、話題事項を日本語に訳しながら整理した。
- (5) 研究補助者の協力を得て、『太平広記』『古小説鈎沈』の一話ごとの話題・あらすじを構成する事項を整理する作業を行った。
- (6) 抽出した話題事項をパソコンに入力して整理した。

4. 研究成果

本研究の大きな成果は、『太平広記』の話題事項を整理することができたことである。例えば、『太平広記』巻316「鬼一」部から巻355「鬼四十」部までについて、(1)鬼(幽鬼)の相貌、(2)出現の仕方、(3)出現の理由、(4)人との交流の仕方、(5)人を害する行為、(6)人を利する行為、(7)発揮する超能力、(8)冥界の組織、(9)人の鬼(幽鬼)に対する対応、(10)消滅の仕方、(11)消滅の理由、などの項目に分け、該当する原文(日本語訳を付す)を抽出した。これで、「鬼」については、古小説から同様の話題事項を収集する大きな基準が完成したことになる。

これを「鬼」部以外の箇所をも加えて検討すると、更に詳細な話題事項を作成することが可能となる。例えば、「(8)冥界の組織」について、巻146から巻160の運命の予言譚を集めた「定数」部から次のような事項を抽出し、データの整理を行っている。その一部を見本として以下に掲載する。

1. 冥界の神様

1-1. 陰君

・役人が陰君に伝えに行く 汝可止此。吾將白於陰君。158 定数 十三 許生 1138

1-2. 洞庭府君

・洞庭府君が男の詩を見る 持詣水府。府君覽之。152 定数 七 鄭徳璘 1090

・洞庭府君は男と旧交がある 況曩有義相及。152 定数 七 鄭徳璘 1090

・洞庭府君は老人 韋氏視府君。乃一老叟也。152 定数 七 鄭徳璘 1090

・洞庭府君が男の心情に感動して蘇生 乃説府君感君而活我命。152 定数 七 鄭徳璘 1090

2. 冥界の役人

2-1. 冥界の役人

・男は将来洞庭湖一带を治める官吏になる運命 徳璘異日は吾邑之明幸。152 定数 七 鄭徳璘 1090

・役人が娘を地上に案内する 逐主者疾趨而無所碍。152 定数 七 鄭徳璘 1090

・公文書を持った冥界の役人に拘引される 有一使持牒。云。大使追。152 定数 七 薛少殷 1093

・亡兄が弟を同僚の王のもとへやる 汝既來此。可以一謁而去。152 定数 七 薛少殷 1093

・黄や緑の服の役人/冥界/色/ 門外多是著黄衫慘縁衫人。157 定数 十二 李敏求 11127

・緋色や紫の服の役人/冥界/色/ 又見著緋紫端簡而偵立者。157 定数 十二 李敏求 11127

・白い服の役人/冥界/色/ 披白衫露髻而倚牆者。157 定数 十二 李敏求 11127

・案件の文書を持つ集団 有抱持文案。窺門中而將入者。如叢約數百人。157 定数 十二 李敏求 11127

・冥界の役人からの命令 某受命於冥曹。157 定数 十二 李生 1131

・役人の怒りが幾分和らぐ 吏怒稍解。158 定数 十三 許生 1138

・寝ている間に役人に連行される 嘗於寢寐間若被官司追攝。158 定数 十三 陰君文字 1140

・大官がいる/冥界の役人/ 中有一大官。158 定数 十三 陰君文字 1140

・冥界の役人が現世の人事を司る 凡幽吏皆主人生之事。159 定数 十四 婚姻 定婚店 1142

2-1-1. 冥界の使者

・黄色い服を着た冥界の使者 見二黄衣人追去。157 定数 十二 李敏求 2 1128

・冥界の使者と冥界に行く 隨使者入冥。158 定数 十三 許生 1138

2-2. 冥界の役人を兼務する

・冥界の役人を兼業している属吏 吏曰。某不幸兼屬陰司。151 定数 六 韓滉 1086

・夜は冥界で判官をしている僧 夕則視事於陰府。155 定数 十 郭八郎 1115

3. 冥界での職務

3-1. 食糧管理

・冥界で何を管理しているのか尋ねる/試す/既屬陰司。有何所主。151 定数 六 韓滉 1086

・三品以上の官吏の食料を担当 吏曰。某主三品已上食料。151 定数 六 韓滉 1086

3-2. 判官

・男を宝塔から出して判官のもとに連行 乃迫而出。令引少殷見判官。152 定数 七 薛少殷 1093

・西院に入って判官を待つ 及出門之西院。闇者入白。152 定数 七 薛少殷 1093

・判官は亡兄 逡巡。聞命素服乃入。所見乃亡兄也。152 定数 七 薛少殷 1093

・夜は冥界で判官をしている僧 夕則視事於陰府。155 定数 十 郭八郎 1115

- ・知人が泰山府君の判官 柳十八郎今見在泰山府君判官。 157 定數 十二 李敏求 1 1126
- ・冥界の判官の多忙さ 毎日判決繁多。造次不可得見。 157 定數 十二 李敏求 1 1126
- ・下男が男を判官に案内 岸請先入啓白。 157 定數 十二 李敏求 1 1127
- ・判官は紫の服 著紫衣官人具公服。 157 定數 十二 李敏求 1 1127
- ・男が冥界の泰山府君の判官に拝謁 敏求趨拜訖。 157 定數 十二 李敏求 1 1127
- ・判官とは生前の旧知 即故柳懈秀才也。 157 定數 十二 李敏求 1 1127
- ・判官が男に用向きを聞く 大是非意事。莫有所由妄相追攝否。 157 定數 十二 李敏求 1 1127
- ・冥界の判官が知人に便宜を図ろうとする 僕幸居此處。當爲吾人理之。 157 定數 十二 李敏求 1 1127
- ・判官が男を帰らせる 此固有定分。然宜速返。 157 定數 十二 李敏求 1 1127

3-3. 生者の財産管理

- ・相手の受け持ちを尋ねる/冥界の仕事/ 敏求曰。此主何事。 157 定數 十二 李敏求 2 1128
- ・生者の財産を管理/冥界の仕事/ 人所得錢物。遂歳支足。 157 定數 十二 李敏求 2 1128
- ・男が所得の帳簿を見たがる 切要知一年所得如何。 157 定數 十二 李敏求 2 1128
- ・冥界の役人が財産の帳簿 馬公乃爲檢一大葉子簿。黃紙簽標。 157 定數 十二 李敏求 2 1128
- ・盧弘宣の収入記録 盧弘宣年支二千貫。 157 定數 十二 李敏求 2 1128
- ・収入と項目が朱書きで記入 以朱書曰。年支三百貫。以伊幸賣宅錢充。 157 定數 十二 李敏求 2 1128
- ・自分の収入を増すよう要求 幸逢君子。竊欲僥求。 157 定數 十二 李敏求 2 1128
- ・冥界の役人が要求を受け入れる/融通/ 三二十千即可。多即不得。 157 定數 十二 李敏求 2 1128
- ・男の収入を操作して増す 更三十千。以某甲等四人錢充。 157 定數 十二 李敏求 2 1128

3-4. 現世での職務

3-4-1. 生活用水の使用量の管理

- ・生活用水の使用量の管理 主給一城内戸口逐日所用之水。 157 定數 十二 李生 1131

3-4-2. 現世の人事を司る

- ・冥界の役人が現世の人事を司る 凡幽吏皆主人生之事。 159 定數 十四 婚姻 定婚店 1142
- ・婚姻を司る老人 天下之婚牘耳。 159 定數 十四 婚姻 定婚店 1142

4. 冥界の役所

- ・冥府の役所に着く 既入。見官府。 152 定數 七 薛少殷 1093
- ・冥界の役所の門/建物/ 引敏求入大衙門。

- 157 定數 十二 李敏求 1 1127
- ・冥界の役所の様子/建物/正北有大廳屋。丹楹粉壁。壯麗窮極。 157 定數 十二 李敏求 1 1127
- ・運命の帳簿のある場所 過大廳東。別入一院。 157 定數 十二 李敏求 1 1127
- ・運命の帳簿のある部屋の大きさ 院有四合大屋。約六七間。 157 定數 十二 李敏求 1 1127
- ・帳簿の部屋は書架だらけ 窓戶盡啓。滿屋唯是大書架。 157 定數 十二 李敏求 1 1127
- ・男が別の部屋を発見 又過一門。門扇斜開。 157 定數 十二 李敏求 1 1127
- ・寝台だらけの部屋 見四合大屋。屋內盡有牀榻。 157 定數 十二 李敏求 1 1127
- ・寝台の上に数百個の銅製の官印 上各有銅印數百顆。 157 定數 十二 李敏求 1 1127
- ・部屋に赤い斑の蛇も数百匹いる 雜以赤斑蛇。大小數百餘。 157 定數 十二 李敏求 1 1127
- ・何の部屋か不明 吏笑而不答。 157 定數 十二 李敏求 1 1127
- ・大きな役所に着く/冥府/ 至大府署。 157 定數 十二 李敏求 2 1128
- ・四面は全て書架 四隅盡是文書架。 157 定數 十二 李敏求 2 1128
- ・役所のような場所に到着/冥界/ 有頃至一處。有若公府。 158 定數 十三 陰君文字 1140

5. 冥界の物

5-1. 人間界の食事の帳簿

- ・人間界の食事の帳簿の有無を尋ねる 因復問。人間之食。皆有籍耶。 151 定數 六 韓滉 1086
- ・三品以上の官吏は毎日の帳簿がある 三品已上日支。 151 定數 六 韓滉 1086
- ・五品以上は十日毎の帳簿がある 五品已上而有權位者旬支。 151 定數 六 韓滉 1086
- ・六品から九品以上の官吏は季節毎の帳簿がある 凡六品至於九品者季支。 151 定數 六 韓滉 1086
- ・無官の者は一年ごとの帳簿がある 其有不食祿者歲支。 151 定數 六 韓滉 1086
- ・帳簿を見るなど命令/禁止/ 然慎勿窺吾簿。 158 定數 十三 許生 1138
- ・書架に人間の食料簿がある 生潛目架上有簽牌曰。人間食料簿。 158 定數 十三 許生 1138
- ・運命の帳簿を盗み見する 遂披簿求之。 158 定數 十三 許生 1138
- ・見たことのない文字が並ぶ/冥界の帳簿/ 多不曉其文。 158 定數 十三 許生 1138
- ・大豆三合の注がある 於仁忠名下。注大豆三合。 158 定數 十三 許生 1138

5-2. 運命の帳簿 → < C > 9-1-7

5-3. 宰相になる物の肖像画

- ・宰相になる者の肖像画がある 有爲相者。皆以

形貌。用碧紗籠於廡下。 155 定數 十 又李固言 1 1112

5-4. 生者の財産を記した帳簿

・男が所得の帳簿を見たがる 切要知一年所得如何。 157 定數 十二 李敏求 2 1128

・冥界の役人が財産の帳簿 馬公乃爲檢一大葉子簿。黃紙簽標。 157 定數 十二 李敏求 2 1128

・盧弘宣の収入記録 盧弘宣年支二千貫。 157 定數 十二 李敏求 2 1128

・収入と項目が朱書きで記入 以朱書曰。年支三百貫。以伊幸賣宅錢充。 157 定數 十二 李敏求 2 1128

・自分の収入を増すよう要求 幸逢君子。竊欲僥求。 157 定數 十二 李敏求 2 1128

・冥界の役人が要求を受け入れる/融通/ 三二十千即可。多即不得。 157 定數 十二 李敏求 2 1128

・男の収入を操作して増す 更三十千。以某甲等四人錢充。 157 定數 十二 李敏求 2 1128

・盧弘宣が冥界の帳簿の話を知る 有人知者。爲盧公話之。 157 定數 十二 李敏求 2 1129

5-5. 書物

・見たこともない文字で書かれた本/未知の書/唯此書目所未覩。 159 定數 十四 婚姻 定婚店 1142

・冥界の本 幽冥之書。 159 定數 十四 婚姻 定婚店 1142

6. 冥界の人

6-1. 僧侶

・東側にいる宝塔を持った僧 東面有一僧。手持寶塔。 152 定數 七 薛少殷 1093

・振り向くと先の宝塔の僧がいる 顧見向者持塔僧。 152 定數 七 薛少殷 1093

6-2. 白服の人

・白い服の人が拝礼をする 俄有白衣人走來。拜敏求。 157 定數 十二 李敏求 1 1126

6-3. 亡者

・男の愛情が向けられた溺死者を捜す 召溺者數輩曰。誰是鄭生所愛。 152 定數 七 鄭德璘 1090

・娘は自分のことだと気がつかない 而韋氏亦不能曉其來由。 152 定數 七 鄭德璘 1090

・鎖で繋がれた未決の亡者 有被枷鎖。牽制於人而俟命者。 157 定數 十二 李敏求 1 1127

・下男が亡者に道を開けさせる/先払い/ 張岸揮手於其衆曰。官客來。 157 定數 十二 李敏求 1 1127

7. 死者と再会する

7-1. 両親

・娘が死んだ両親に会いたがる 叩頭曰。吾之父母。當在水府。可省覲否。 152 定數 七 鄭德璘 1091

・洞庭府君が娘の望みを叶える 曰。可。 152 定數 七 鄭德璘 1091

・娘が死んだ父母を訪問 訪其父母。 152 定數 七 鄭德璘 1091

7-2. 兄

・判官は亡兄 逡巡。聞命素服乃入。所見乃亡兄也。 152 定數 七 薛少殷 1093

・兄弟が冥界で再会して泣く 絺泣良久。 152 定數 七 薛少殷 1093

7-3. 下男

・男が相手を忘れる 爾非我舊傭保耶。 157 定數 十二 李敏求 1 1126

・十年前に死んだ下男と再会 小人即二郎十年前所使張岸也。 157 定數 十二 李敏求 1 1126

・下男が亡者に道を開けさせる/先払い/ 張岸揮手於其衆曰。官客來。 157 定數 十二 李敏求 1 1127

7-4. 生前の知人

・冥界の役人と生前旧知の関係 即鮮于叔明也。 152 定數 七 薛少殷 1093

・判官とは生前の旧知 即故柳澥秀才也。 157 定數 十二 李敏求 1 1127

・一別以来の話をする 綢繆絃話。 157 定數 十二 李敏求 1 1127

・生前と変わらない様子 不異平生。 157 定數 十二 李敏求 1 1127

・知人が冥府で勤務 求窺之。見馬植在內。 157 定數 十二 李敏求 2 1128

・知人が冥界で食事中 於地鋪坐吃飯。 157 定數 十二 李敏求 2 1128

・知人にいる理由を問う 公安得在此。 157 定數 十二 李敏求 2 1128

・相手が顔をそむける 且不欲與之相見。廻面向壁。 157 定數 十二 李敏求 2 1128

・子供を抱いた女に出会う 忽見一婦女。形容顛頽。衣服纏縷。抱一孩子。 158 定數 十三 許生 1138

・出産で死んだ朱仁忠の亡妻 妾是朱仁忠亡妻。頃年因産而死。 158 定數 十三 許生 1138

・亡妻の話をする 又話見君亡妻。言其形實無差。 158 定數 十三 許生 1138

7-5. 乳母

・かつての乳母と再会 復見老姥年六十餘。乃敏求姨氏之乳母。 157 定數 十二 李敏求 2 1129

・乳母の家は江淮 家在江淮。 157 定數 十二 李敏求 2 1129

7-6. 亡妻

・稠桑の王老人を訪ねれば亡妻に会える 奚不問稠桑王老。 160 定數 十五 婚姻 李行脩 1150

・亡妻に会いたがる 遂説所懷之事。 160 定數 十五 婚姻 李行脩 1150

・老人が晩に亡妻に合わせる 今夜可也。 160 定數 十五 婚姻 李行脩 1150

7-7. 若い娘

・若い娘が出迎えに現れる 一女子出。行年十五。 160 定數 十五 婚姻 李行脩 1150

7-8. 侍女

・十数年前に死んだ侍女が現れる 果見行脩十数年前亡者一青衣出焉。160 定數 十五 婚姻 李行脩 1150

・侍女が亡妻に取り次ぐ 乃齋一榻云。十一郎且坐。娘子續出。160 定數 十五 婚姻 李行脩 1150

8. 冥界の動物

8-1. 馬

・役所を出て馬に乗る 敏求出至府署外。即乗所借馬。157 定數 十二 李敏求 1 1128

・冥界の馬の走る様子 馬疾如風。157 定數 十二 李敏求 1 1128

8-2. 竹

・侍女が折った竹に乗る 便折竹一枝跨焉。160 定數 十五 婚姻 李行脩 1150

・疾走する馬のように速い竹の様子 迅疾如馬。160 定數 十五 婚姻 李行脩 1150

・侍女が男の竹も用意して乗らせる 與行脩折一竹枝。亦令行脩跨。160 定數 十五 婚姻 李行脩 1150

・竹に乗って元の場所に戻る 依前跨竹枝同行。160 定數 十五 婚姻 李行脩 1151

9. 冥界の風景

・異界の様子 山川草木。無異人間。但不知是何處。157 定數 十二 李敏求 1 1126

・異界で城壁を発見 望見一城壁。即趨就之。157 定數 十二 李敏求 1 1126

・にぎやかな往来のさま/冥界/ 復見人物甚衆。呵呼往來。車馬繁鬧。157 定數 十二 李敏求 1 1126

10. 冥界の建築物

10-1. 宮殿

・立派な宮殿が現れる 城闕壯麗。前經一大宮。宮有門。160 定數 十五 婚姻 李行脩 1150

・宮殿の中の様子 見朱裏緹幕下燈明。其內有橫眸寸餘數百。160 定數 十五 婚姻 李行脩 1150

11. 冥界での暮らし

・何をしているのか問う 又問曰。爾何所事。157 定數 十二 李敏求 1 1126

・今は柳十八郎に仕える 便事柳十八郎。甚蒙驅使。157 定數 十二 李敏求 1 1126

11-1. 冥界の住居

・水府での住居と人間界の住居は同じ 父母居止儼然。第舍與人世無異。152 定數 七 鄭德璘 1091

12. 冥界の食べ物

12-1. 粟

・地面に粟が千石積まれている 忽見地堆粟千石。158 定數 十三 許生 1138

・札に金吾將軍朱仁の俸禄とある 中植一牌曰。金吾將軍朱仁忠食祿。158 定數 十三 許生 1138

13. 現世での便宜を要請

・現世での便宜を図ってくれと懇願 受生苦窮

薄。故人當要路。不能相發揮乎。157 定數 十二 李敏求 1 1127

14. 冥界と現世は世界が異なる

・男を水府には呼べない/殺せない/ 不可不曲活爾命。152 定數 七 鄭德璘 1090

・人間界の公事と冥界の別/公私の別/ 假使公在世間作官職。豈可將他公事。157 定數 十二 李敏求 1 1127

・幽明を異にしている 今與君幽顯異途。160 定數 十五 婚姻 李行脩 1151

15. 冥界に来た理由

15-1. 誤って連行される

・男は間違いで連行された 主吏按其簿曰。此人乃誤追之矣。158 定數 十三 許生 1138

・人違いで連行された男 誤追此人來。宜速放去。158 定數 十三 陰君文字 1140

15-2. 勝手に迷い込む

・自分で勝手に冥界へ来てしまった 非有人呼也。157 定數 十二 李敏求 1 1127

15-3. 生者を冥界に呼びよせる

・出世しない弟を兄が冥界に呼び寄せる 吾以汝未成名。欲薦汝於此。152 定數 七 薛少殷 1093

16. 現世に帰りたい

・人間界に帰りたいと訴える 少殷欲有所訴。152 定數 七 薛少殷 1093

・新婚の男が俗世に戻りたがる 少殷時新婚。懇不願住。152 定數 七 薛少殷 1093

・亡兄に再度帰して欲しいと頼んで泣く 詣兄泣。且請去。152 定數 七 薛少殷 1093

16-1. 現世に送り返す

・娘を蘇生させて男と一緒にさせる 因召主者。携韋氏送鄭生。152 定數 七 鄭德璘 1090

・役人が娘を地上に案内する 逐主者疾趨而無所碍。152 定數 七 鄭德璘 1090

・亡兄が男のことを詰める 兄知不可留。乃入白官府。許之。152 定數 七 薛少殷 1093

・下男に男を送らせる 可將一兩箇了事手力。兼所乘鞍馬。157 定數 十二 李敏求 1 1128

・連行した使者に命じて送り返させる 吏遂遣前使者引出放還。158 定數 十三 許生 1138

17. 冥界に長居をしてはいけない

・長居をしてはいけないと娘を促す 不得久停。促其相別。152 定數 七 鄭德璘 1091

18. 冥界と現世を行き来する

・冥界と往来できる僧/異人/ 僧曰。吾常於陰府往來。155 定數 十 又李固言 1 1112

19. 道中の様子

19-1. 現世から冥界へ

・冥界へ行く途中はみな街のよう 經歷之處。皆如郡城。158 定數 十三 許生 1138

・人の少ない鎮州を通る 行經一城。云是鎮州。其間人物稀少。158 定數 十三 陰君文字 1140

・人の多い幽州 又經一城。云是幽州。其間人物

衆廣。158 定數 十三 陰君文字 1140

19-2. 冥界から現世へ

・亡兄が男の保護者を遣わす 吾舊使祇承人李俊。令隨汝去。有危急。即可念之。152 定數七 薛少殷 1094

・危難に遭うたび例の僧が庇護 每遇危際。皆見其僧前引。152 定數七 薛少殷 1094

・僧に守護してくれる理由を尋ねる 弟子素不相識。和尚何乃見護如此。152 定數七 薛少殷 1094

・僧は男のために金剛經を誦す/靈驗/ 僧曰。吾爲汝持金剛經。故相護爾。152 定數七 薛少殷 1094

・大変細くて狭い道路/幽明の道/ 其徑路微細。隨使者而行。158 定數 十三 許生 1138

20. 現世との境界

・道の果てに大きな池がある/境界/ 將盡。睹一大池。碧水汪然。152 定數 七 鄭德璘 1090

・真つ暗な場所に到着/幽明の境/ 須臾到一處。天地漆黑。157 定數 十二 李敏求1 1128

・数十里先の真つ暗な穴/幽明の境界/ 行數十里。却至壕城。見一坑深黑。157 定數 十二 李敏求2 1129

今後は、『太平広記』と『古小説鉤沈』全体について作成したこのようなデータを全話題事項について統合整理することが課題である。それを完成させて、公開することができれば、日本及び世界中の説話の比較研究において極めて貴重な資料として提供することが可能となる。引き続き、統合整理と公開に向けた作業を継続中である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 12 件)

(1) 富永一登 (『太平広記』研究会)、『太平広記』訳注 (十五) 一卷二百九十一「神」(一) 一、中国学研究論集、24、102-133、2010、査読無

(2) 富永一登 (『太平広記』研究会)、『太平広記』訳注 (十六) 一卷二百九十二「神」(二) 一、中国学研究論集、25、10-33、2010、査読無

(3) 富永一登、魯迅輯『古小説鉤沈』校釈一『幽明録』(十三)、中国学研究論集、22、83-91、2009、査読無

(4) 富永一登 (『太平広記』研究会)、『太平広記』訳注 (十三) 一卷二百八十九「妖妄」(二) 一、中国学研究論集、22、49-76、2009、査読無

(5) 富永一登 (『太平広記』研究会)、『太平広記』訳注 (十四) 一卷二百九十「妖妄」(三) 一、中国学研究論集、23、1-38、2009、査読

無

(6) 富永一登、魯迅輯『古小説鉤沈』校釈一『幽明録』(十二)、中国学研究論集、20、134-142、2008、査読無

(7) 富永一登 (『太平広記』研究会)、『太平広記』訳注 (十一) 一卷二百八十七「幻術」(四) 一、中国学研究論集、20、119-133、2008、査読無

(8) 富永一登 (『太平広記』研究会)、『太平広記』訳注 (十二) 一卷二百八十八「妖妄」(一) 一、中国学研究論集、21、63-94、2008、査読無

(9) 富永一登、魯迅輯『古小説鉤沈』校釈一『幽明録』(十)、中国学研究論集、18、126-138、2007、査読無

(10) 富永一登 (『太平広記』研究会)、『太平広記』訳注 (九) 一卷二百八十五「幻術」(二) 一、中国学研究論集、18、100-125、2007、査読無

(11) 富永一登、魯迅輯『古小説鉤沈』校釈一『幽明録』(十一)、中国学研究論集、19、62-73、2007、査読無

(12) 富永一登 (『太平広記』研究会)、『太平広記』訳注 (十) 一卷二百八十六「幻術」(三) 一、中国学研究論集、19、41-61、2007、査読無

[学会発表] (計 0 件)

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

富永一登 (TOMINAGA KAZUTO)

広島大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：70132636

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：